

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①石川弘子著『モンスター部下』日本経済新聞出版社 (2019年8月刊, 230p, 新書判)</p> <p>SNS(交流サイト)で会社や取引先の誹謗中傷を垂れ流す若手社員、年下の上司に「逆パワハラ、するシニア社員などあり得ないトラブルを起こす「モンスター社員」が増殖中だ。こうした部下は話を通じず、話し合っても平行線に終わることが少なくない。しかし、だからといって相手を避けてばかりでは、他者に悪影響が及び、気づいたときには自分の部署が崩壊させられている、という事態になりかねないと本書は管理職層に語りかける。モンスター部下は①嘘つきモンスター②自己愛型モンスター③モラル低下モンスター——に類型されるが、接する問題部下がどのタイプなのか分析し、承認欲求など相手の言動の奥にある本心は何なのかを探ることが大事だとつづった。</p>	<p>③田中里尚著『リクルートスーツの社会史』青土社 (2019年9月刊, 526+vip, 四六判)</p> <p>「就活」学生のスーツ姿は、季節の風物詩として見慣れたものとなっている。この背広を世間ではリクルートスーツと呼ぶが、なぜこんなものを着なくてはいけないのか、というつぶやきも漏れ伝わってくる。採用の現場では、服は無視できないが重要ではない。人格や熱意を見ずにどうして採用ができればいいのかとされる。就活生も服にとらわれている暇はなく、志望動機や自己PRに集中すべきで、労力を省くうえでのみならず同じスーツのほうが無難だ。本書は、無個性の象徴とされ、否定され、ときに笑われるリクルートスーツの歴史を描写。なぜ就活スーツが黒一色に染まるようになったのかも解いている。</p>
<p>②稲葉振一郎著『AI時代の労働の哲学』講談社 (2019年9月刊, 216p, 四六判)</p> <p>現代は「第三次人工知能(AI)ブーム」と言われている。「AI技術の発展が人間の仕事を奪う」——。本書は、こうした考えはこれまでも議論されてきた「古くて新しい問題」だと説く。AIが労働・雇用に対して与えるインパクトを整理すると、まず肉體労働が代替され、コンピューターの出現以降は精神労働の領域にまで拡大してきたと指摘。仮にAIが「道具」であることを脱して、自律的に行動し、人間を上回る能力を発揮するようになったとしても、それはただ単に新しいタイプの「人間」が増えたことにすぎないという。そのうえで本書は、AI技術の発展は社会に大きな影響を与えるだろうが、資本主義社会の構造を根本的に変えることはないとの見方を示している。</p>	<p>④藤野豊著『「黒い羽根」の戦後史』日経BP社 (2019年9月刊, vi+374p, A5判)</p> <p>終戦後、日本の復興のための基幹産業として位置づけられながら、1940年代末には合理化政策が推し進められた炭鉱産業。海外の石炭や石油の輸入といったエネルギー革命が加わり、多くの炭鉱労働者が失業し、深刻な不況に陥った。なかでも中小炭鉱が集まる筑豊は、貧困と少女の人身売買の温床になったという。国が炭鉱離職者臨時措置法を成立させ、炭鉱労働者の救済に着手したのは1959年。著者は国がこうした施策を実施したのは、安本末子の日記『にあちゃん』、土門拳の写真集『筑豊のこどもたち』などのメディアのほか、募金活動「黒い羽根運動」も原動力になったと振り返る。本書は臨時措置法成立までの15年を精査することで、炭鉱産業の負の歴史を追及した。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2019年10月-11月労働図書館受け入れ)

⑤ダニエル・コーエン著『ホモ・デジタルの時代』白水社(222+xvii頁, 四六判)	⑩本の雑誌編集部編著『働くわたし』本の雑誌社(186頁, 四六判)
⑥福谷尚久著『会社の終活』中央経済社(18+321頁, A5判)	⑪西岡研介著『トラジャ: J R「革マル」三〇年の呪縛、労組の終焉』東洋経済新報社(615+viii頁, A5判)
⑦水町勇一郎著『詳解労働法』東京大学出版会(xxxiii+1,429頁, A5判)	⑫櫻村愛子著『この社会で働くのはなぜ苦しいのか』作品社(244+vii頁, 四六判)
⑧飯村大智著『吃音と就職:先輩から学ぶ上手に働くコツ』学苑社(132頁, A5判)	⑬結城康博著『介護職がいなくなる』岩波書店(86頁, A5判)
⑨南雲智編著『留学生の日本就職ガイド』留学生就職サポート協会(257頁, B6判)	⑭小島俊一著『会社を潰すな!崖っぷち社員たちの企業再生ドラマ』PHP研究所(373頁, 文庫判)

労働図書館 <https://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書124,704冊、洋書32,563冊、和洋の製本雑誌26,719冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(244種)、洋雑誌(139種)、紀要(502種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地:〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間:9:30~17:00

休館日:土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号:03(5991)5032 / FAX:03(5991)5659

利用資格:どなたでもご自由にご利用できます

貸出:和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス:図書資料の所在調査などのサービスを行っています

